

『ちゃぐりん』食農クイズ2022年9月号版 解答・解説

問題		解答	掲載ページ	解説
1	サトウキビから塩がとれる	×	4 69	サトウキビ1本から作られる砂糖はわずか120グラムほどです。お店などで売られている1キログラム入りの上白糖(じょうはくとう)には、約8本ものサトウキビが使われているそうです。
2	満月の模様はウサギだけにたとえられる	×	8	日本では「もちをつくウサギ」に見えるとよくいわれますが、海外では、カニ・ロバ・ライオン・女性の顔など、さまざまなものにたとえられています。
3	グラニュー糖や黒糖の原料はそれぞれ違う	×	12	どちらもサトウキビの汁を加工した「原料糖」が原料です。粉状にしたり、固形状に固める加工を行うことで、色や形の違うさまざまな砂糖が作られています。
4	ラムネがシュワツとするのには理由がある	○	16	重そうは弱アルカリ性、クエン酸は弱酸性なので、二つが合わさったところに水が加わると中和してあわが出ます。食べたときに口の中のだ液の水分に反応するためシュワツと感ずるのでした。
5	小舟に乗って収穫する野菜がある	○	23	ジュンサイは水草の一種で、ぬまの中で育ちます。収穫は小舟に乗って、茎をひとつひとつ手でつみ取っていきます。新芽や茎はゼリー状のものに包まれていて、ぶるぶるとした食感が楽しめます。
6	アイズプラントについているつぶには名前がある	○	34	氷のようなつぶのことを「ブラッター細胞」といいます。雨の少ない土地でも生きていけるように、吸い上げた塩水をブラッター細胞にためています。ぷちぷちとした食感と塩の味がするのが特徴です。
7	石垣で畑を作るのはデザインがよいからである	×	132	石垣は石を積み上げて作りますが、畑が地すべりでくずれないようにするためだったり、太陽の光を石が吸収して土を保温する効果を利用するために造られています。
8	『半農半漁』という言葉がある	○	134	農業と漁業の両方を仕事にして生活することです。今は昔にくらべて、農業をしながらかの仕事を「兼業農家(けんぎょうのうか)」が多くなっていますが、海辺に暮らす人たちは、昔からほとんどが半農半漁の暮らしでした。
9	日本では約10万頭の乳牛が飼われている	×	155	約135万頭がいるといわれています。そのうちの60パーセントは北海道で飼われているものです。毛の色が黒と白のまだら模様の「ホルスタイン」のほか、「ジャージー」「エアシャー」「ブラウンスイス」という種類もいます。
10	ミルクタルトは南アフリカ共和国で生まれた	×	39	オランダで生まれた焼き菓子ですが、南アフリカ共和国では定番の味として親しまれています。牛乳がたっぷり使われていて、シナモンがきいた一品です。